

映像作家・今村彩子さん講演

制作への熱意や作品紹介



「周囲に勇気を分けてあげたい」

三遠南信地域の課題解決を目指す団体で活躍する人材を育てるインターンシップ(就業体験)事業で、遠州地区の参加者十九人の集合研修会が二十日、浜松市中区城北の市勤労会館Uホールで開かれた。生まれつき聴覚障害がある映像作家の今村彩子さん「写真」が、手話を使って講演した。(神谷慶)

中区で「三遠南信事業」研修会

ハンディがありながら事業を興し、障害者と健常者が共生するための社会づくりを提案している今村さんの思いを、研修生に知ってもらうのが主な狙い。

今村さんは名古屋出身。「父が見せてくれた字幕付きの洋画に元気をもらった。自分も、周囲に勇気を分けてあげたいと思った」と、映像制作を志すきっかけを振り返った。

大学時代の米国での留学経験を基に、手話通訳者などが付き添う

ことで、聴覚障害者が得られる情報を確保する「講義保障」の考え方を紹介。実践している大学、学生を取材した自身の作品「ユニバーシティライフ」について、「作品によって、保障に取り組む大学が増えることが一番うれしい」と伝えた。

このほか、就業体験事業で研修生を受け入れるNPO法人や企業など十団体による活動説明も行われた。

事業主体は、内閣府の地域社会雇用創造事業を受託した三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)。研修は各法人に受け入れられる形で、自然資源、地域づくり、安心安全の三分野で、九月末までに三十日間実施される。